

# やまなし教員育成指標一覧表

ステージ		採用時	全ステージ	
教職としての素養	と社 し会 て人	法令遵守	法令を遵守する態度	
		自立	高い倫理観を持ち、法令を遵守している。	
		協働・創造	豊かな人間性と深い教養を持ち、自立している。	
	教員として	使命感・責任感	物事を進めようとしている。	優れたコミュニケーション能力を持ち、周囲と協働して新たな価値を創り出している。
		教育的愛情	教育公務員としての崇高な使命と責任感を持って教育にあたっている。	児童生徒一人一人に愛情をもち、未来の山梨を担う人材を育成している。
		意欲	児童生徒一人一人に愛情をもち、未来の山梨を担う人材を育成している。	時代の変化に対応し、自らの資質能力・実践力を向上させようとしている。
	研究能力	継続的かつ積極的に授業研究を行い、児童生徒に深い学びを提供している。	継続的かつ積極的に授業研究を行い、児童生徒に深い学びを提供している。	

ステージ	採用時	第1ステージ	第2ステージ	第3ステージ		
		実践力養成期	専門性充実期・協働力養成期	指導力・協働力完成期		
ステージのあるべき姿	教育に対する情熱と使命感を有し、今日の教育的課題を積極的にとらえようとしている	実践力を磨き、教員としての基礎を築いている	専門性を高め、ミドルリーダーとして組織を活性化している	豊富な経験と広い視野から総合的な指導力・協働力を発揮し、積極的に学校運営を支えている		
教職としての専門性	学習指導	学習指導要領の内容を把握し、学校と社会とのつながりの重要性を理解している。	「やまなしスタンダード」に基づいた授業を実施し、自己の授業を振り返り、改善している。	「主体的・対話的で深い学び」の授業を展開し、適切な評価を行っている。	学びに向かう力の育成や人間性を涵養する授業の実践において、指導的役割を果たしている。	
	生徒指導	学級経営	集団の変容に気づくとともに、一貫した指導をしている。	集団の課題を明確にし、それを同僚と共有し、協働して解決を図っている。	学校全体の視点からの学級づくりを行い、教師集団の中で指導力を発揮している。	
		児童生徒理解	各発達段階における心理的特性を把握し、生徒指導の重要性を理解している。	日々の声かけや面談により、児童生徒の気持ちに寄り添った指導をしている。	きめ細かな観察や励まし、カウンセリングの技法等を用いて、児童生徒の意欲を高めている。	児童生徒一人一人の生き方を考えさせる指導等について、校内をリードしている。
		道徳性の涵養	児童生徒の発達段階に応じて、道徳性を高める指導をしている。	道徳性の高まりや変容を適切に見取り、同僚と共有し、指導に生かしている。	学校教育全般にわたって、児童生徒の道徳性を高める指導を展開する推進役となっている。	
	キャリア教育	社会の動向に関心をもち、キャリア教育の重要性を理解している。	体験活動等を有効に活用し、職業やキャリアプランを考えさせる指導を行っている。	キャリアプランの実現に向けた指導を同僚と協働して行っている。	学校全体のキャリア教育が、組織的に推進されるよう、指導的役割を発揮している。	
	特別支援教育	特別支援教育に関する基礎的な知識を身につけ、重要性を理解している。	児童生徒の学習上・生活上の困難さの実態をとらえ、個別の支援をしている。	特別支援教育に関する専門性を高め、関係諸機関と連携・協働し、効果的な指導をしている。	校内支援体制の充実や合理的配慮の提供に指導力を発揮している。	
	学校運営	教育課程	学校の教育目標と編成された教育課程を理解し、実施している。	学校の教育目標達成に向け、カリキュラム・マネジメントに基づき、教育課程を実施している。	「開かれた教育課程」の編成に参画している。	
		連携・協働	同僚や保護者等と望ましい信頼関係を構築し、課題に対応している。	関係諸機関と連携・協働し、課題解決に向け取り組んでいる。	連携・協働による課題解決をリードし、学校運営の改善に参画している。	
		研修	自己の課題を認識し、必要な研修に主体的に励んでいる。	研修内容や成果を同僚と共有し、児童生徒に還元している。	研修の成果を学校教育活動・運営に生かし、組織をより良く変容させている。	
		学校安全	いじめ防止基本方針や危機管理マニュアル等を理解し、学校安全に取り組んでいる。	方針やマニュアル等に基づいた取組を推進し、その改善に努めている。	学校安全に精通し、方針やマニュアル等の改善を推進している。	
新たな教育課題	グローバル化への対応	ふるさと山梨を深く理解し、地球的視野に立って主体的に行動する児童生徒を育成している。				
	情報推進教育	ICT活用能力	ICTを活用して、「主体的・対話的で深い学び」を実現する授業を展開している。			
		情報モラル	情報モラルを身につけ、情報を有効に活用できる児童生徒を育成している。			
	人権教育	人権尊重の意識を持ち、具体的な態度や行動に表すことができる児童生徒を育成している。				

※ 第1ステージは採用から5年目まで、第2ステージは採用6年目～40代半ばまで、第3ステージは40代半ば～60歳までをイメージしている。

※ 黄色の箇所は、各ステージにおいて、特に重点を置いてほしい項目と内容を示している。